

2 結核・感染症サーベイランス事業におけるウイルス検査

【微生物科】

結核・感染症事業の28対象疾病について、県内13検査定点から採取された検体についてウイルス分離同定を行った。

検体数、分離状況は表1、表2に示すとおりである。892名、1230検体からのウイルス分離率は、236名（26.5%）、258検体（21.0%）であった。ウイルスの種類は25種類であった。

以下本年度の特徴的なものについて述べる。

1. 手足口病からコクサッキーA10型ウイルスが分離された。
2. ヘルパンギーナからは、7種類のウイルスが分離されコクサッキーA4型、コクサッキーA10型ウイルスがおもに関与していた。

3. インフルエンザ様疾患からは、A香港型ウイルスが23株、B型ウイルスが32株検出され2種類のウイルスによる大規模の流行となった。また、11月下旬早期にB型ウイルスが本県ではじめて検出された。

4. 無菌性髄膜炎からは10種類のウイルスが分離され、エコー9型ウイルス、コクサッキーB2型、コクサッキーB1型ウイルスが主な原因ウイルスであった。

5. 咽頭結膜熱から流行を反映してアデノ3型ウイルス、流行性角結膜炎からアデノ4型ウイルスが検出された。

表1 疾病別検体採取状況 (1994年度)

1994. 4 ~ 1995. 3

臨床診断名 (疑いを含む)	1994年										1995年			計
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		
麻疹様疾患														
風 疹	1 1	1 1		4 4	2 2				1 1			5 3	14 12	
水 痘		1 1	3 3	2 2	1 1				1 1		3 2		11 10	
流行性耳下腺炎	3 3	2 2	6 6	3 3	2 2	4 4	6 4	6 6	5 5	12 12	3 2	4 3	56 52	
百日咳様疾患		1 1		2 2					1 1		2 2		6 6	
溶連菌感染症		1 1		1 1							1 1	1 1	4 4	
異型肺炎														
感染性胃腸炎	19 6	11 9	18 15	20 13	23 19	11 8	17 13	17 12	13 11	13 12	19 15	17 14	198 147	
乳児嘔吐下痢症	13 10	3 2	1 1		1 1				2 1	7 4	4 3	31 18	62 40	
手足口病	2 2	2 2		5 5	31 31	3 3	3 3	1 1	3 3	2 2		2 2	54 54	
伝染性紅斑	1 1												1 1	
突発性発疹											1 1		1 1	
ヘルパンギーナ		4 4	6 6	21 20	28 27	16 16	3 3	2 2	2 2	1 1		2 2	85 83	
インフルエンザ 様 疾 患	19 19	2 2							2 2	98 96	109 106	40 39	270 264	
MCLS(川崎病)			5 3		1 1	3 2	2 1	3 3		4 3	2 2		20 15	
咽頭結膜熱	1 1		1 1	2 2	1 1	5 4	1 1		3 3				14 13	
流行性角結膜炎				1 1					1 1	1 1	1 1		4 4	
急性出血性結膜炎						2 1							2 1	
無菌性髄膜炎	12 7	23 12	13 9	20 11	178 68	55 19	32 13	49 20	17 7	11 6	10 5	2 2	422 179	
脳・脊髄膜炎											1 1		1 1	
陰部ヘルペス		2 2		1 1					1 1		1 1		5 5	
尖圭コンジローム														
計	71 50	53 39	53 44	82 65	268 153	99 57	64 38	78 44	52 39	149 137	157 142	104 84	1220 892	

(注) 上段は検体数、下段は患者数を示す。

